未来構想PF
プラットフォーム通信
第2号
平成26年1月15日発行
（社）未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム

″国際比較″を身につけよう　　山本卓朗

ウィキペディアで「ガラパゴス化」を調べると、孤立した環境（日本市）で「最適化」が著しく進行すると、エリア外との互換性を失い孤立して取り残されるだけでなく、外部（外国）から適応性（汎用性）と生存能力（低価格）の高い種（製品・技術）が導入されると最終的に淘汰される危険に陥るという、進化論におけるガラパゴス諸島の生態系になぞらえた警句である、と定義づけています。事例として、パソコン、携帯電話、デジタルテレビ、カーナビ、非接触カードなどが挙がっていますが、建設業の国際化の遅れも広義に見れば当てはまると言ってよいでしょう。すなわち、ゼネコンの再編淘汰が進んでいないこと、海外でも施工受注にとどまっていてフィービジネス体制が出来ていないこと、オールジャパン体制を求める成長戦略についていけないことなど国際比較をすれば歴然としています。お隣の韓国は成長著しく、建設業でも日本を凌駕しつつあり、もはや日本に学ぶものがないとの発言も聞かれる状況です。

なぜ日本がこういうことになっているかというと、高度成長で世界トップレベルの経済力を持ち国内消費が極めて旺盛で、原材料の輸入は別として、国内向け事業だけで十分食ってこれた、逆に言えば世界に出ていく必要がなかった企業が大半であったということだと思います。国鉄・ＪＲなどその典型で、いまは新幹線輸出など力を入れているが、これからも財務的にはほぼ完全な国内産業であり続けるでしょう。その過程で日本の技術を世界標準として整備してこなかったから、EU など自らの技術を世界標準にして排他的にシェアを広げる動きに席巻され、四苦八苦する状況が続いています。私自身もその一員であったから、如何に自分がガラパゴス化しているか（国際化していないか）を痛切に感じています。

さて、本題の″国際比較″です。我が国の社会基盤は十分すぎるほど整備されているから、今後の投資は必要ない、という財務系からの強い意見があります。確かにそうだと首肯する向きも多いから、反論も簡単ではありません。しかし我が国の社会環境は真に豊かと言えるのか、今の社会基盤で激化する国際競争に対抗できるのか、宿命的な自然災害への備えはこれでいいのか、などの議論をするときに、では世界はどうなっているか、EU 諸国の考えや歴史的な背景は何か、我が国の整備状況は欧米と比較してどうなっているか、等々を″国際比較″しながら見て行かないと公正な意見を開陳することが出来ないのではないでしょうか。特に土木建設系の我々は、また公共事業を増やして仕事をしたがっていると言われてしまうこと必定です。一方、こういう国際比較できる資料やデータは、専門機関の統計や本や雑誌に多く載せられているけれど、いざというときに検索するのが容易でなく、苦労することも多いのです。

このようなことを考えて、当 PF では、皆さんから将来ビジョンなどを考えるときに役立つ国際比較データを随時投稿してもらう事にし、過日関係する皆さんにお願いしたところです。私たちが興味を持つ分野に限っても、そのボリュームは無限大です。だからこの作業は泥沼に嵌るのではないかと懸念する声が聞こえますが、そんなに難しく考えないで、″継続は力なり″という自然な構えで続けて行こうと思います。常に国際比較で物を見る、考える、そういう癖をお互いに付けるようにしたい、これは一つの運動ではないか、と考えているところです。

プラットフォーム通信をスタートしましたが、この通信でも寄せられたデータから興味深いものをピックアップして随時掲載することも試みたいと考えています。

（未来構想 PF　会長）

WS（ワークショップ）研修

■これまで実施したＷＳ研修

ターミナル駅やネットワークの将来ビジョンをテーマとする総合部門を 7 シリーズ、調査計画段階での施工計画をテーマとする施工計画部門を３シリーズ、計 10 シリーズ実施した。

第 1 回	池袋駅将来構想（H21.3～H21.6　全 8 回）	美谷ファシリテーター	10 名
第 2 回	大崎駅将来構想（H21.9～H22.1　全 8 回）	有川ファシリテーター	10 名
第 3 回	空港アクセス鉄道（H22.3～H22.6　全 8 回）	有川ファシリテーター	9 名
第 4 回	上野駅将来構想（H22.9～H23.1　全 8 回）	小山ファシリテーター	10 名
第 5 回	八王子駅将来構想（H23.3～H23.6　全 8 回）	新関ファシリテーター	12 名
第 6 回	浜松町駅施工計画（H23.6～H23.9　全 6 回）	三輪ファシリテーター	9 名
第 7 回	四ツ谷駅将来構想（H23.9～H23.12　全 8 回）	前川ファシリテーター	9 名
第 8 回	我孫子駅施工計画（H24.4～H24.6　全 7 回）	山﨑ファシリテーター	10 名
第 9 回	首都圏鉄道 20 年ビジョン（H24.11～H25.7 全 10 回）	堀江ファシリテーター	11 名
第 10 回	橋本駅施工計画（H25.8～H25.11　全 8 回）	岩井ファシリテーター	10 名

ＶＯＩＣＥ（会員の声）

東日本大震災後の子どもの心のケア事業を構想する

東日本大震災の発災直後、私が所属する JR 東日本東北工事事務所は、主に東北新幹線の運転再開にむけた応急復旧工事に邁進し、私も建築関係実務責任者として取り組みました。時が流れてもうすぐ発災から 3 年が経とうとしています。今年度は、津波により大きな被災を受けた仙石線・常磐線の別線復旧区間においても工事に着手しています。

ところで、今回紹介するのは、私がプライベートで理事(副代表)をしているＮＰＯ

法人の東日本大震災後の子どもの心のケア事業の事例です。発災直後からの取り組みと、3年目につくった中期構想について紹介します。

ＮＰＯ法人日本冒険遊び場づくり協会(以下「協会」という)は、地域で子どもたちが自由に遊び育つ豊かな社会の実現を目指して「子どもの遊び場づくり事業」を推進しているＮＰＯです。事業の特徴は、子どもが自らの発意により自由に遊ぶことを大切にしていることと、地域住民が主体となり、行政等とパートナーシップを築いて地域事業として継続させることであり、日本全国の約300箇所で事業が行われています。

平成7年の阪神大震災では、発災半年後から子どものＰＴＳＤ（心的外傷後ストレス障害）の発生が大きく報道されはじめました。そうした中で、私たちの仲間が運営した避難所内の子どもの遊び場が、子どもの心のケア事業として精神科医グループから注目されることになりました。その経験から、子どもたちは遊びなどの自由な活動で気持ちを発散させる環境があれば、自らの傷ついた心を徐々に整えていくことができることがわかりました。「地震ごっこ」「火事ごっこ」など大人が眉をひそめる遊びも現れましたが、つらい体験を自ら受け止める大切な行動であったことを知りました。

平成23年3月11日の東日本大震災発災直後、協会は被災地域の特に大津波により大きなショックを受けた子どもたちのことを心配しました。避難所の忙しい大人たちの陰に隠れて、子どもたちはつらい体験をじっと心に溜め込んでいるに違いありません。一方、全国の遊び場づくりの仲間からは、『被災地域の子どもたちのために何かしたいが、何をしたらいいのかわからない』という声が協会に届いていました。

気仙沼あそびーばーの様子

あそぼっかー事業で遊び場開催支援

協会は「緊急の復興支援事業」として、地元の地主さんと関係を築いて気仙沼市に「気仙沼あそびーばー」というほぼ毎日やっている協会直営の遊び場を4月下旬に設置しました。国際ＮＧＯと連携して現地の寝場所を確保し、スタッフは全国の仲間に協力を求め、資金は寄付を募りました。遊び場は子どもたちと一緒に山を切り開いて遊具や小屋をつくり、子どもたちに大人気の場所になりました。スタッフは子どもたちから発せられる声や言葉に耳を傾け、行動を見守り、感情を受け止めました。そし

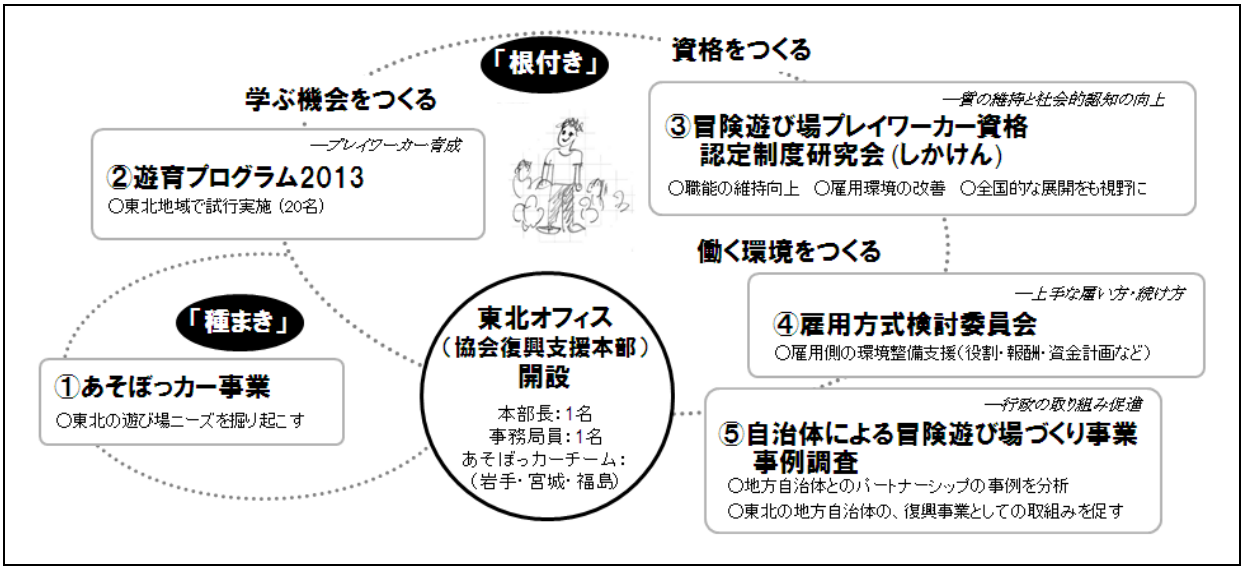
て、思い切り遊ぶ子どもたちの笑顔は、親をはじめ大人の気持ちも明るくさせました。

しかし、東日本大震災の被災地域は広大です。1箇所の遊び場では到底たりません。そこで、協会は、「あそびーばー」をパイロット事業（広告塔）に位置づけて、他の地域の被災者、行政関係者、マスコミなどの視察を受け入れました。さらに、「あそぼっかー」という遊び道具満載のクルマで被災地域を走り回り、自分の地域でも遊び場をやってみたいと思う人の要望に応える形で、「種まき」事業をすることにしました。結果として、東北地域で新たに30以上の遊び場づくりの芽が出てきました。

協会は震災から3年目となった平成25年7月に、「これから5年間の復興支援事業の中期構想」について話し合う合宿を行いました。その中期構想をもとに平成25年度は、（公財）日本ユニセフ協会及び復興庁（「新しい東北」先導モデル事業）と各々1千万円以上の契約を結び、被災地域の子どもの心のケアに関する事業を行います。

具体的には、原子力発電所事故の放射線汚染の関係で外遊びがやりにくかった福島地域を含めて「種まき」事業を拡大するべく、「あそぼっかー」を3台体制で運行する準備を進めています。さらに、東北地域で芽吹いた遊び場づくり事業が地域事業として継続・定着できるように、プレイワーカー雇用の仕組みづくりを中心とした「根付き」支援の4事業を進めており、現地拠点として東北オフィスを設置しました。

私はこの事例で構想力と実行力が合体すると資金を引寄せることを実感しました。



日本冒険遊び場づくり協会の東北オフィス開設と５つの復興支援事業（平成25年度）

（平成26年1月6日　ＪＲ東日本東北工事事務所　佐々木健二）

NEWS

■国際比較データを募集しています

今回作成する国際比較データ集は、皆さんから送られたデータのみで構築します。

様々な、数多くの、いろいろな分野のデータを継続して収集整理しますので、ご協力よろしくお願いいたします。

◇集めているデータ

・データは図表で作成されたものに限ります
・目に触れた、国際比較出来るデータや資料
・未来プロジェクト計画を補完するデータ
　＊鉄道や交通に限定せず、趣旨に沿うようなデータなら何でもＯＫです

◇送り方

・メールで送信・・・・・・・・・必ず電子化し（例えば PDF）メール添付で
・出典は必ず明記を
・送り先アドレス　　kokusai-data-ws@miraikoso.or.jp

今月の国際比較データ

①各国の鉄道輸送量（2011 年）

出典：世界国勢図会 2013/14　(公財)矢野恒太記念会
資料提供者：事務局　土井博己

図 10-1　各国の鉄道輸送量（2011年）

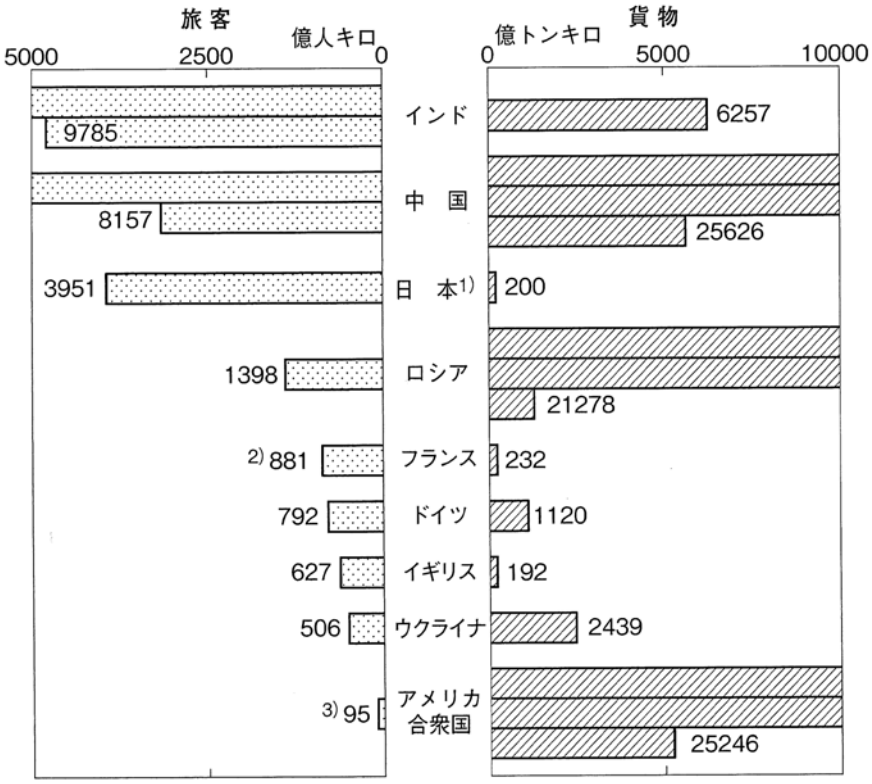


表10-2により作成。表10-2の脚注を参照のこと。1）2011年度。2）一部に2009年のデータを含む。3）2009年。

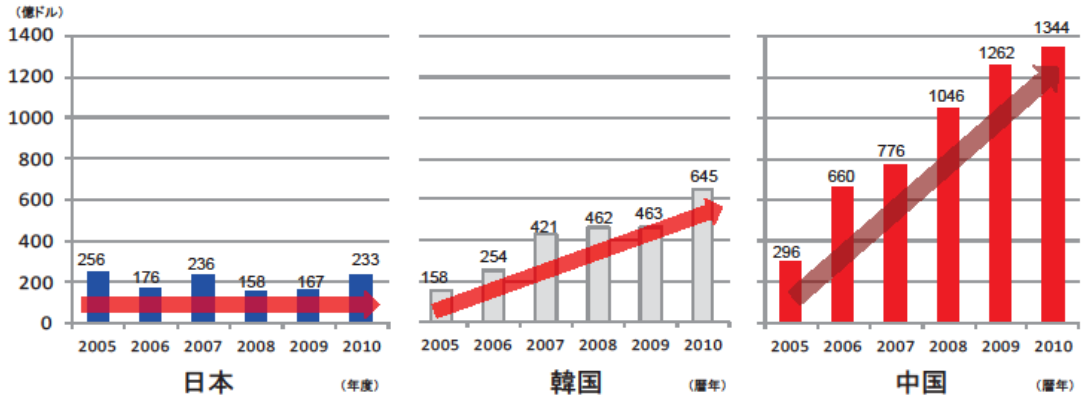
②日韓中の海外インフラ受注実績推移（2005～2010 年）

出典：世界のインフラ需要など

資料提供者：ＪＲ東日本　西條信行

日韓中の海外インフラ受注実績推移（2005～2010年）

○2005～2010年の間、日本の海外インフラ受注は200億ドル/年前後。
○同期間中、韓国は158億ドルから645億ドル、中国は296億ドルから1344億ドルに拡大。（それぞれ約4倍）
※ただし、統計上、中国の受注額にのみ建築工事等を含み、グラフ上は高めの値となっている

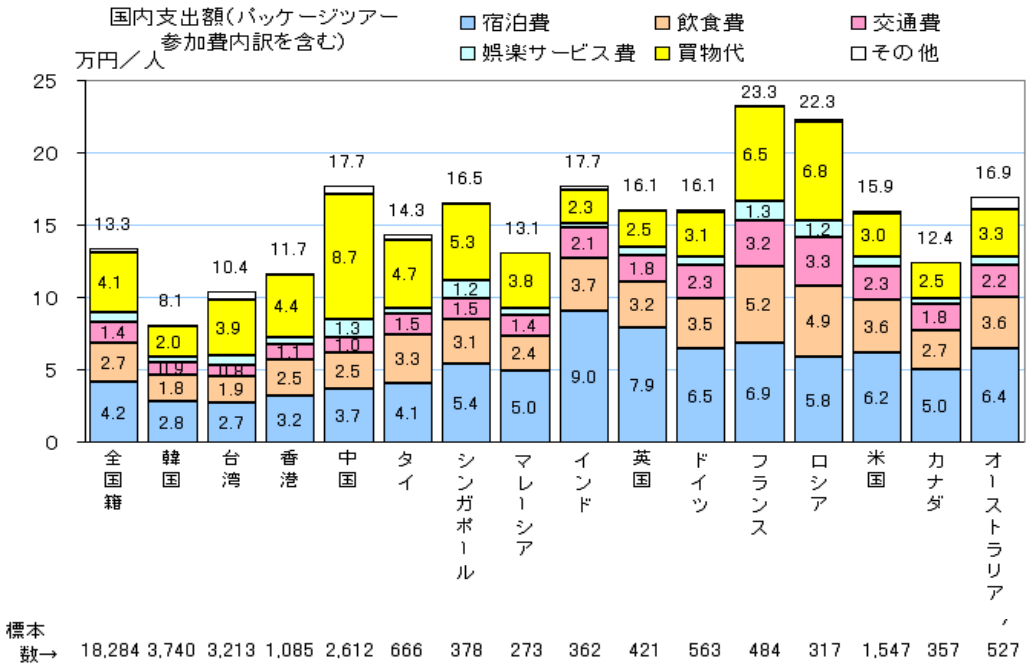


③訪日外国人の旅行消費額比較（2010 年）

出典：官公庁　訪日外国人の消費動向　平成 22 年年次報告書

資料提供者：ＪＲ東日本コンサルタンツ　小林重夫

訪日外国人の旅行消費額比較（2010年）



事務局通信

■技術講演会の開催案内

鉄道建設研究会との共催で、下記の通り技術講演会を開催します。

１．テーマ：東日本大震災によるＪＲ東日本の被害と復旧・復興（仮題）
２．講演者：熊本義寛様　ＪＲ東日本執行役員　総合企画本部復興企画部長
３．日　時：平成 26 年 2 月 26 日（水）16:30～17:50　引続き懇親会
４．場　所：ホテルメトロポリタンエドモント２階「薫風」
　　千代田区飯田橋 3-10-8　03-3237-1111（代）
５．会　費：１万円（懇親会参加費含む）

参加希望者は、下記連絡先（事務局）までメールで申し込んで下さい。

～ ● 今月の写真コーナー ● ～

世界遺産「富士山」。どこから見ても雪化粧の富士山は日本人の誇りです。
（ＪＲ東日本　岩井有人）

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井　携帯:090-9150-8613 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005　東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28